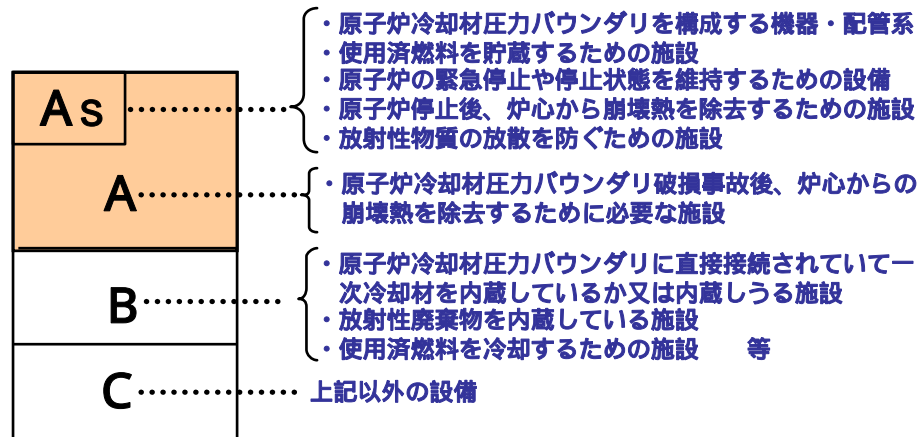


耐震重要度分類

旧指針

設備をその耐震上の重要度に応じて4分類に区分し、合理的に設計。その際に、重要度分類に応じた許容限界を設定。



Asクラス... 基準地震動S2に対して安全機能の保持

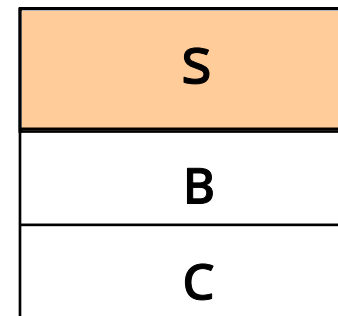
基準地震動S1に対して弾性挙動の維持

Aクラス ... 基準地震動S1に対して弾性挙動の維持

(Sクラスへ格上げ)

新指針

最重要クラス (As) をAクラスまで拡大し3分類に区分。
それに応じて、重要度分類と許容限界の組み合わせが変更。

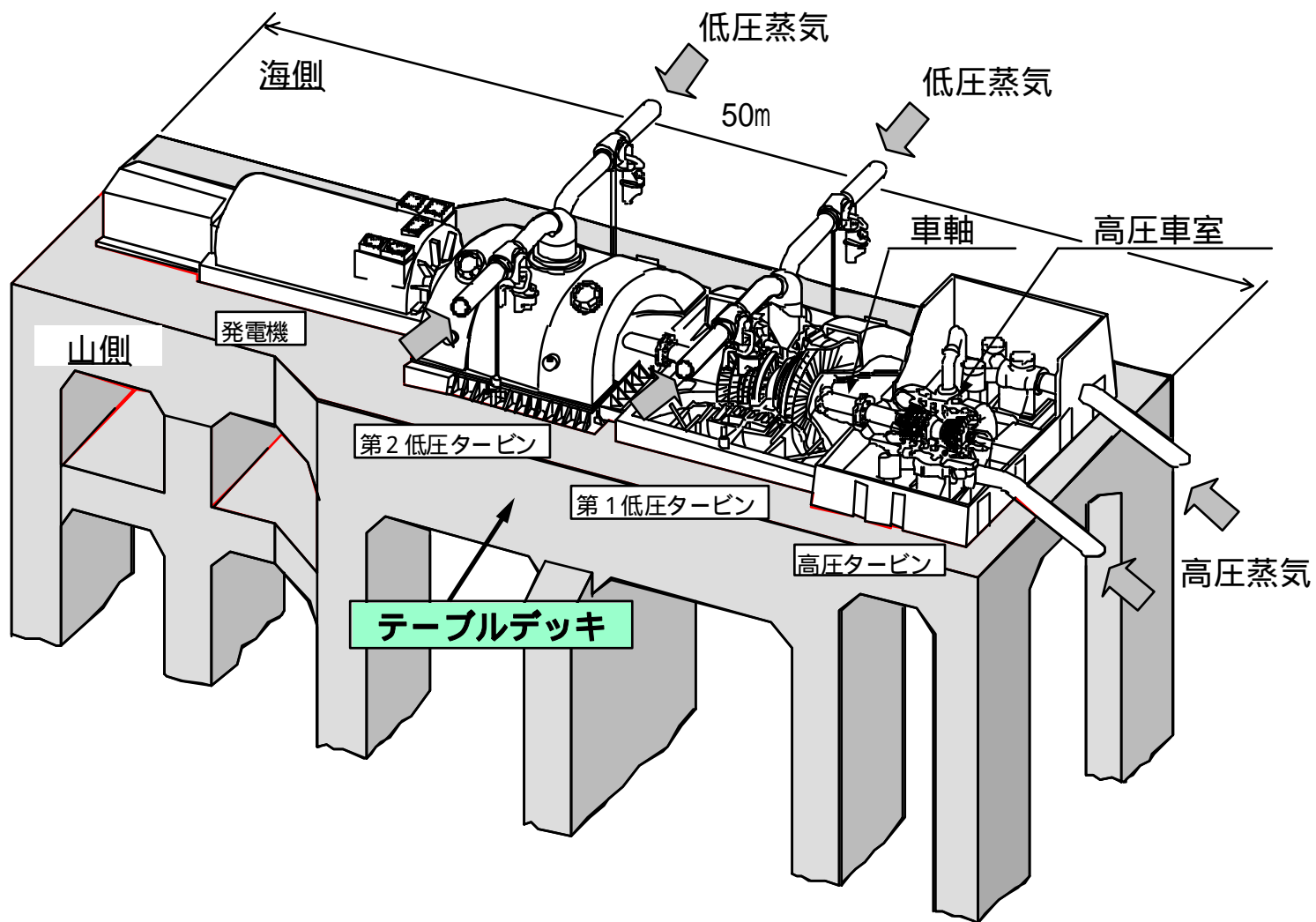


最重要クラス (As) の
範囲をAクラスまで拡大
し呼称変更

Sクラスの設備...基準地震動Ssに対して
安全機能の保持

弾性設計用地震動Sdに対して弾性挙動の維持

タービン発電機架台

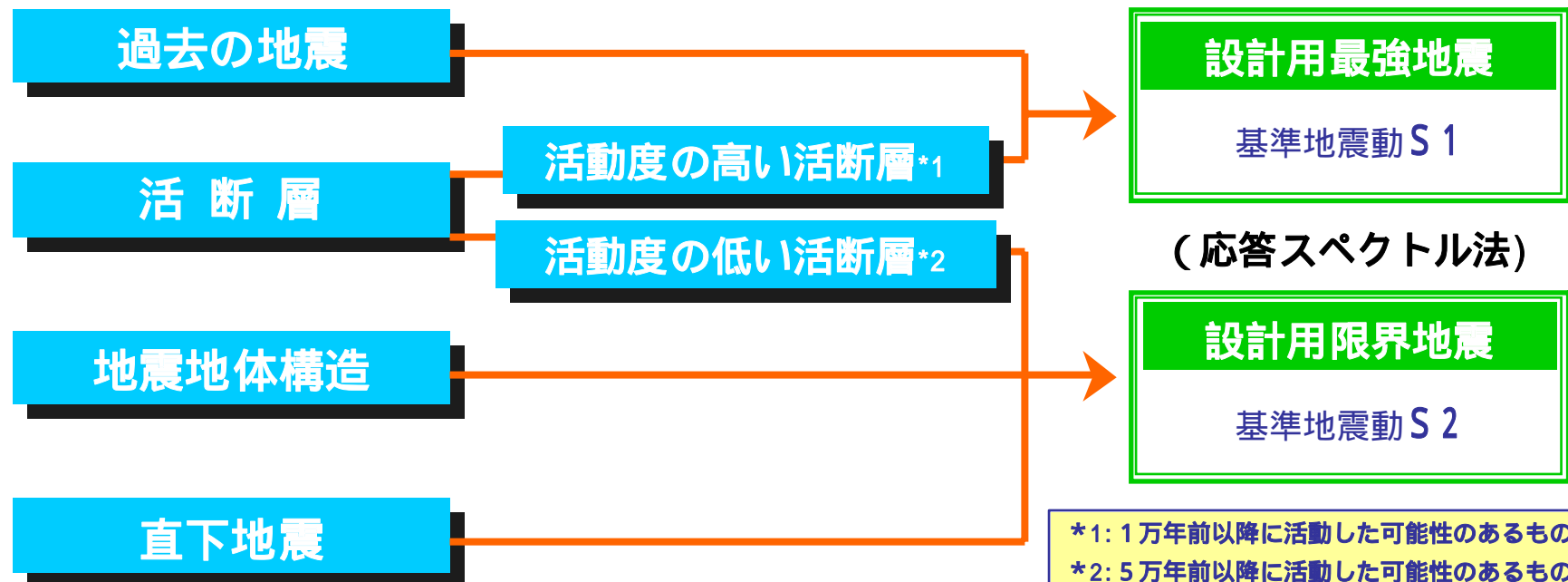


旧指針の基準地震動

限界的な地震をも考慮した設計

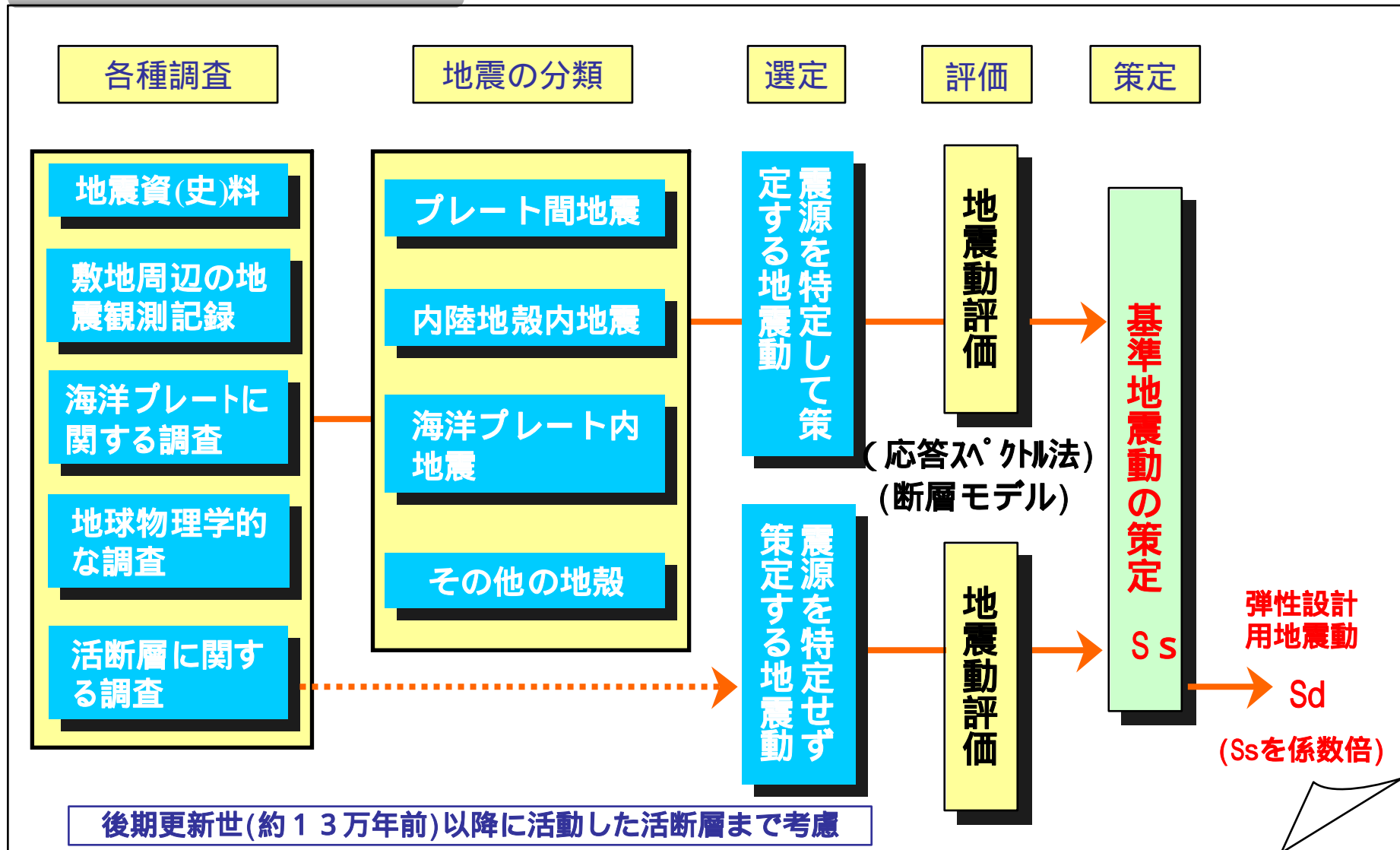
・原子炉容器や格納容器など安全上特に重要な施設は、将来起こるかもしれない最強の地震(設計用最強地震S1)に耐えられることはもとより、およそ現実的ではないと考えられる限界的な地震(設計用限界地震S2)に対しても、その安全機能を失わないように設計

設計用地震動策定の流れ



新指針の基準地震動

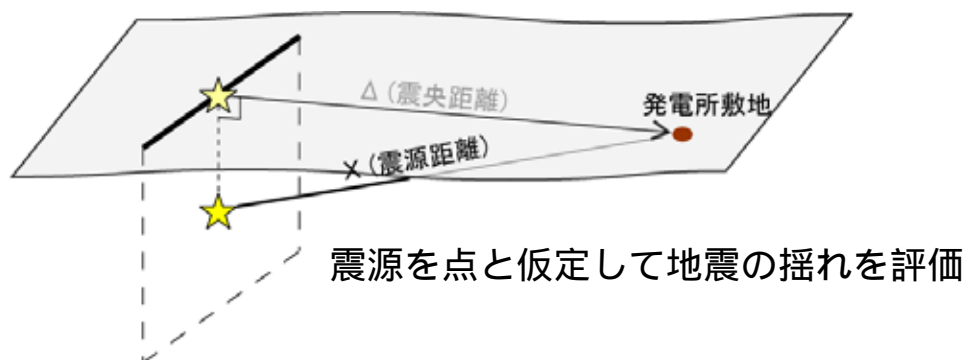
設計用地震動策定の流れ



地震動の評価手法

応答スペクトル手法

- ・震源を一つの点と仮想して、震源からの距離と地震が伝播する地盤の地質から、ある地点(伊方発電所)の揺れを評価する手法



断層モデルによる手法

- ・断層を面としてとらえ小領域に分割し、個々の小領域から発生する地震の波を重ね合わせてある地点(伊方発電所)の揺れを評価する手法

